

別子大争議勝利の爲めに 細心同盟の全力を傾注せよ。

我が械肉紙労働紙工及び諸新聞にて報導しつつ、ある。總
盟日本鑛夫組合別子銅山支部は大資本家住友家の所有。
國別子銅山に於て、昨年十二月五日より争議を繼續して
雪積り風吹き荒ぶ角野村の山麓に陣營を堅めた罷業團は
あの年の暮れの維新と突破し、更に本年に入つて今尚一糸
乱れず全力を擧げて戦つてゐる。
別子支部七百の兄弟達は年の瀬も、正月も、又三度の食
事も總てと投げ棄て、只だ住友を倒せ、鑛夫の勝利を期
せと、連日ニギリ飯に空腹を満して、奮戦してゐるのであ
ります。

會社側の頑迷さは言語を盡す能はざる惨虐を以て罷業團
と對抗してゐる。

思い見よ、彼に住友は全團一の大資本家である事と、
されば彼の地の警察は住友の番犬の如く振舞ひ、或は我が
士を獄に投じ或は會社側の暴力團の行動を黙認してゐる等
を敢てしつゝ、あつた以外、更に西條區裁判所検事局の態度も亦た
奇怪極まるものである。

例へば、新田に於ける傷害事件の不起訴、黒石事件に於ける
組合員の起訴、會社門前小競合に於ける組合員の起訴と會社
僱人の不起訴、四所謂騷擾事件に於ける検事の不公平等、枚挙に
及ばざる有様である。争議開始當初よりしての官憲の態度は悉く鑛山
三側に有利なる行動を敢てしつゝある。

斯くして正面には大資本家住友を敵とし、裏面には官憲の不公平と戦
ひ、又斯くして數里離れた山間に何等典論の力もなく、我が別子支
部大争議は悪戦苦闘四十有日と重ね來つた。
今や我が總同盟南西同盟會は関東同盟會各地に激を飛ばして
或は決死の士を送り、或は資金の輸送を妨がめ、又水戸社農民組合及
び地方有志等も亦最良の勝利を鑛夫側へと、全力を擧げて應援し